



RRCS

Ready-mixed & Returned Concrete
Solution Association

ONSITE WG Technical Information Sheet

コンバラスL(液体品)を用いた生コン処理工法

No.93

荷卸し

受入れ

打込み前

打込み

打込み後

生コンシェア

工場帰着



No. 91 コンバラスL（液体品）を用いた生コン処理工法

【概要】

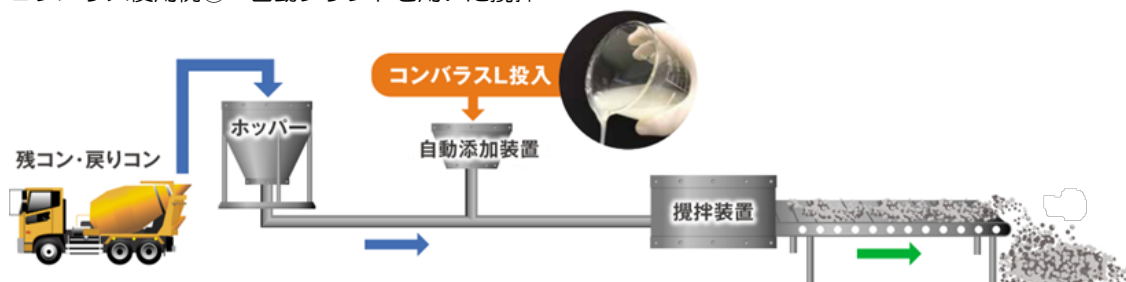
近年、各工事現場において使用されているコンクリートが余ってしまう残コン・使用されず処分される戻りコンが多く発生しており、ほとんどの場合は処分費をかけ、再生されずに廃棄されている。コンバラスLは、発生したコンクリートを即時的に生コンに使用されている骨材と同等な粒度構成性状に変えることのできる処理剤です。

【内容】

コンバラス使用例① 生コン車から排出後攪拌



コンバラス使用例② 自動プラントを用いた攪拌



■残コン・戻りコン 再生処理剤「コンバラスL」の特徴

・コンバラスLは、生コンに含まれるセメントに対し「コンバラスL」が吸着し、セメント同士を接着・架橋作用により、間隙水を抱え込みながら造粒化します。また粉末品と違いとしては、生コン中の混和剤へも影響を及ぼし、セメントの流動性を低下させます。これにより、再生骨材の様な性状になり、養生後は破砕が容易に行えます。

- ・現場や工場で粒状化した材料は、下記の様に使用が可能となる。
- (1) 土工の埋戻工において埋戻材料に混合して使用。
- (2) 軟弱地盤処理工において軟弱土に混合し、粒度調整材料として使用。
- (3) 仮設道路や仮設駐車場に再生砂利として使用。

■添加量

目安としてスランプ 10 cm以下の生コン 1m³ に対して、コンバラス 0.5kg 添加
スランプ 24 cm以下の生コン 1m³ に対して、コンバラス 1.0kg 添加
水分量により効果が大きく影響されますので、添加前に生コンの性状の確認が必要。

■その他



コンバラス L18kg(一斗缶)

- 湿気を帯びないように使用・保管すること
- お取り扱いにはSDS（安全データシート）を必ず読むこと
- 作業にあたってはマスク、ゴム手袋、保護眼鏡を着用すること
- 本剤は水にぬれると滑りやすいので注意すること

添加量につきましてはあくまでも参考数値であり、配合等によって効果が異なる場合がある。
 スランプが 24 cmより大きい場合は、汚水処理機の使用を推奨する。
 投入表の量で効果が見られない際には少しずつ増量すること。
 入れすぎると粘りが多くなる為、注意が必要である。

■写真



添加前性状



添加後性状

■コンバラス（粉末品）・コンバラスL（液体品）の各種特徴

	コンバラス（粉末品）	コンバラスL（液体品）
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶性の袋に小分けしており、使用が容易 ・付着が低く、アジテーター車に投入が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・混和剤とも反応し、流動性を低下させる。 ・液体品であり、生コンへの攪拌効率、反応速度が向上
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・混和剤が多量に含む場合に影響を受けやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付着が強くアジテーター内に残渣が残しやすい。

※基本的な主成分は同じものとなります。

■問合せ先

テクニカ合同株式会社 担当者 藤田
 TEL 078-436-0280 FAX 078-451-0257